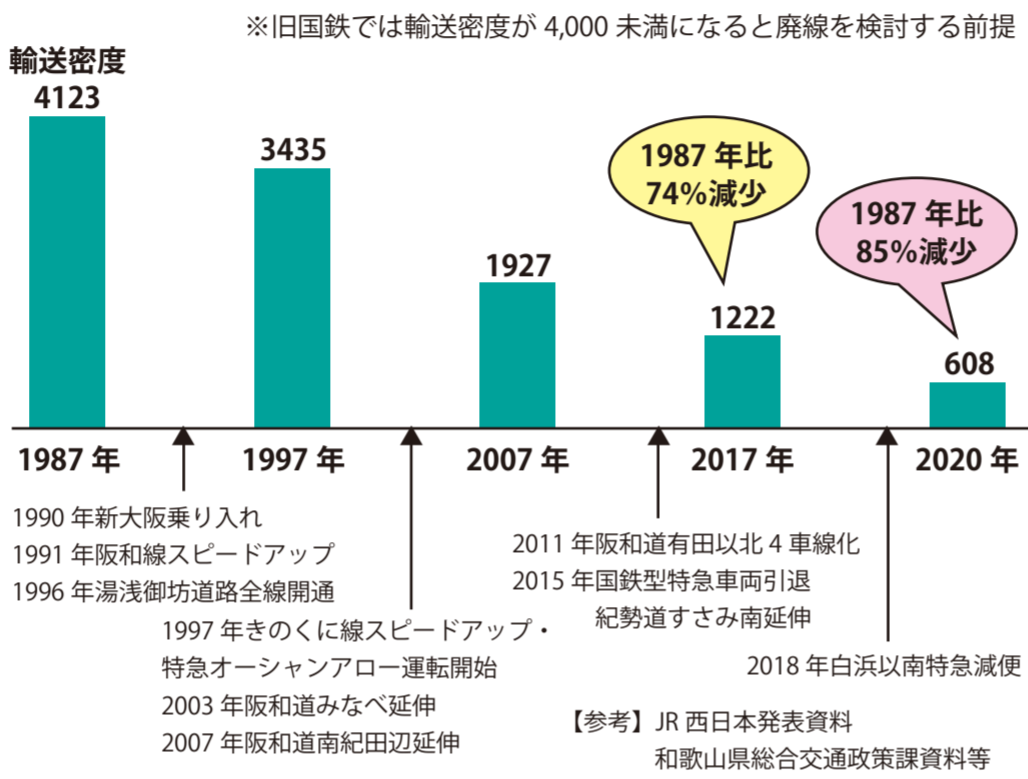




## 風雲急? 「不採算路線の収支」公表の衝撃

JR西日本は4月11日、「ローカル線に関する課題認識と情報開示について」という資料を公表しました。JRだけでは路線維持が困難という輸送密度が2,000を下回るローカル線の収支率、営業係数などが公開され、衝撃をもって受け止められました。和歌山県内もこの対象になっている路線があります。わたしたちはどう考えていけばいいのでしょうか。

### きのくに線(白浜-新宮)の輸送密度の変化と沿線環境の変化



「国鉄基準」の半分  
今回の情報開示では輸送密度が2千を下回る区間の収支状況が公開されました。輸送密度は平均通過人員ともいわれ、1日1キロあたりの乗車人数を表しています。旧国鉄では輸送密度が4千を下回る、バス路線への転換を前提とした廃線を検討するルールとなっていました。今回の輸送密度2千というラインはその半分というところになります。逆にいえば、JRに経営が移管されて以降、様々な増収策や経営効率化が図られたことなどにより、このような路線でも維持ができていたともいえます。

JR西日本に限らず、JR各社は新幹線や都市部で得た利益を地方路線の維持に充当する「内部補填」で路線を維持してきた経緯があります。しかしここ最近のコロナ禍で稼ぎ頭だった新幹線や都市部の利用が落ち込み、大幅な赤字に転落。内部補填が困難な状態になってきたとされています。

このような状況は、沿線人口の減少により数年から10年ほど先に訪れると考えられていました。コロナ禍で一気に「前倒し」の状態になり、突然苦境に立たされることになったというのが鉄道会社側の事情のようです。

JR西日本に限らず、JR各社は新幹線や都市部で得た利益を地方路線の維持に充当する「内部補填」で路線を維持してきた経緯があります。しかしここ最近のコロナ禍で稼ぎ頭だった新幹線や都市部の利用が落ち込み、大幅な赤字に転落。内部補填が困難な状態になってきたとされています。

今回の情報開示ではきのくに線の白浜-新宮の間の状況も公開されました。コロナ禍前の2019年までの3年間平均では収支率(営業費用に占める運輸収入の割合)は19.0%、営業係数(100円の収入を得るために必要な費用)は52.5、平均赤字額は年間28.6億円と悪化していることがわかります。

この数字をどう捉えるか  
今回情報開示の対象となったのはJR西日本の在来線のうち30の区間。白浜-新宮間はそのなかでも比較的距離が長いこと、特急列車が運行されていることなどから赤字額が大きくなったものとみられます。

この発表を受けて、沿線自治体からは困惑の声が報道されています。和歌山県などはかつて線路の改良などに対して財政的な支援をおこなった。特急列車の高速化を実現した経緯などもあり、一部路線の廃止や利便性の大幅な低下にはつながってほしくない、という意向も見え隠れします。

対して、JRはただちに廃線の協議をおこなうのではなく、持続可能な交通のあり方を地域と協議する材料としたというスタンスを示しています。

この区間には先日新型車両が導入され、ICカード乗車券も使えるようになりました。また自転車を列車内に持ち込める「サイクルトレイン」も始まり、鉄道利用者は少しずつ増加しているといえます。

（志場久起）

JR西日本報道発表資料  
「ローカル線に関する課題認識と情報開示について」  
[https://www.westjr.co.jp/press/article/2022/04/page\\_19817.html](https://www.westjr.co.jp/press/article/2022/04/page_19817.html)  
JR西日本公式サイトのニュースリリースからもアクセス可能

輸送密度は1987年の4123から2019年は1085とおよそ4分の1に、2020年はさらに下がって608となっています。

しかし、南紀方面には無料で通行できる紀勢自動車道が紀伊半島の西側と東側から延伸しており、コロナ禍もあり自家用車での観光の機運が高まっているのも事実。税金等で整備される道路と、事業者が整備することになる鉄道ではそもそも不公平という声もありました。また、鉄道の大きな収入源でもある通学利用も年々減少しています。観光需要のさらなる発掘を模索する声もありませんが、観光は景気動向などに左右されやすく、通学や通勤などの「普段使い」をどう増やすかのほうが効果があるという指摘もあります。

JRは今後の鉄道の運営に際しては、地域との連携による「地域公共交通計画」などへの積極的な関与を通じて議論・検討を進めたいとしています。今回情報開示の対象となった路線だけでなく、和歌山線でも一部区間で輸送密度4千を下回っており、決して将来が安泰というわけではありません。わたしたち住民が「わが町の鉄道」をどうしていきたいのか、積極的に考える時期になっていると思われま。

（志場久起）

## みなさんの「地域を元気にする」活動を応援します! 和歌山県 NPO サポートセンターをご利用ください

和歌山ビッグ愛9階にある和歌山県 NPO サポートセンターは、県民のみなさまの公益的な活動を総合的に応援する施設です。ご利用をお待ちしています!

### ご利用いただける団体

和歌山県内で NPO 法人、NPO・ボランティア団体、公益社団・公益財団法人、一般社団・財団法人などの組織形態で、公益性のある活動をおこなっている団体。  
※ ご相談や情報収集は個人・企業の方でもご利用いただけます。

### ご相談

- ▶ NPO 法人の設立・運営(定款変更や事業報告、役員変更等)にまつわる実務
  - ▶ NPO・ボランティア団体の運営実務
  - ▶ 企業の社会貢献活動等のパートナーとしての NPO 法人等のマッチングなど
- ※ ご相談は、窓口・メール・オンライン等で承っています。来所の場合はご予約ください。

### 情報収集・発信

- ▶ NPO・ボランティア団体のイベント情報の収集と発信
- ▶ 助成金をはじめとした各種支援情報の収集と発信
- ▶ 法律で定められた NPO 法人の情報公開資料(事業報告書等)の閲覧・縦覧
- ▶ NPO 等に関する書籍閲覧・貸し出し等

### 各種事務機器

カラー印刷機、ポスタープリンタなどをご利用いただけます(一部を除き、実費負担が必要です)。

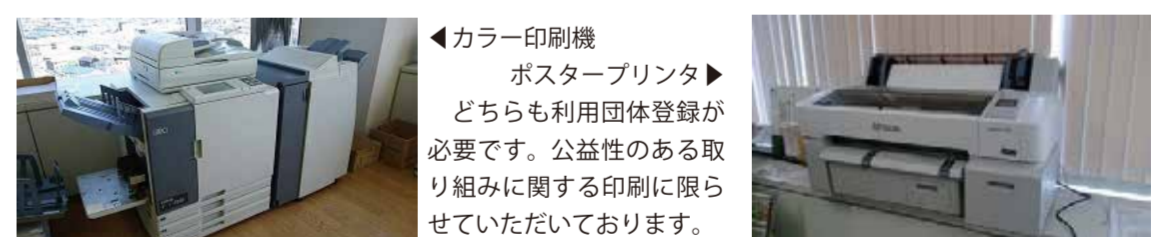
### 会議室

会議室を無料でご利用いただけます。  
※ 会議室は和歌山県男女共同参画センター「りいぶる」、和歌山県青少年活動センターとの共用で、申込み受付と管理は男女共同参画センターが担当しています。

### 情報ブログ・メールマガジン

当センターに届いた情報はブログ(随時更新)、メールマガジン(毎月2回配信)で発信しています。

ブログはこちらからアクセスできます  
メルマガ配信登録はこちらから



◀カラー印刷機  
ポスタープリンタ▶  
どちらも利用団体登録が必要です。公益性のある取り組みに関する印刷に限らせていただいております。



和歌山県 NPO サポートセンター  
和歌山市手平 2-1-2 和歌山ビッグ愛9階  
受付時間: 9:00 ~ 20:50 (日曜は 17:30) 休館日: 月曜・祝祭日・年末年始  
TEL 073-435-5424 FAX 073-435-5425  
E-mail info@wakayama-npo.jp  
わかやま NPO 広場 <https://www.wakayama-npo.jp/>